

「えっ、そっち?」

国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 修士課程

医療福祉ジャーナリズム分野 M1

23S2029 中島 薫 (なかじま かおる)

本日の「医療事故」の講義を興味深く受講しました。

予習では、「医療事故にあってしまった人」としてのご体験と、その後の「起こしてしまった人」への対抗活動の様子をお話しされるのかと想像していましたが、「起こしてしまった人」側の立ち位置を理解されていることに、正直「えっ、そっち?」などと感じながらお話を伺いました。

私は、自身の職歴(臨床検査の民間企業)から、医療事故は難しい問題と理解しています。医療と事故(過誤)との線引きは難しいと思います。「その時点」では事故であることはわからず、裁判や協議や検証によって「その前の経緯」が明らかになって初めて「事故であった」と理解されるのだと思います。

豊田さんは「つなぐ」活動をされながら、こうしたお話は多くお聞きになっていると思いますが、「えっ?」の源泉は、単に「ご経験を積んできたから」だけではなく、豊田さんご自身のキャラによるものなのだろうなと感じました。当該病院に新たに着任された弁護士さん、謝罪された看護師さん、清水先生、NPOの職員の方たちの様々な声に対して、「知らないので支えてもらう」と感じることができるキャラは素敵です。そして、「それを覚悟を持って伝えていく」ことを実践されている(実践できる)キャラを敬愛します。

「起こしてしまった人」が穴に閉じ込められて(穴に閉じこもって)「同じことが繰り返される」ことは、残念ですがよく耳にします(例えば、通園バスでの園児の問題など)。「防げる事故をどう防ぐか」という課題と、「事故が起きてしまった後の対応をどうするか」という課題があると思います。(医療事故に限らず)事故を最小化していくためには、それぞれの立場を理解しながら、表に出して議論することが肝要と思いました。

大学院でジャーナリズムの研究を進めながら、「一石を投じる役割を担っていきたい」と考えています。

本日また一つ、貴重な経験を得ることができました。これを糧にして、他人の役に立つ生活を送っていきたく思います。本日は本当にありがとうございました。